

株 主 の 皆 さ ま へ

第 **218** 期  
— 報告書 —

平成28年4月1日 ▶ 平成29年3月31日

CONTENTS

- 02 ▶ トップインタビュー
- 04 ▶ トピックス
- 06 ▶ 東京製網のアウトライン
- 07 ▶ 財務情報
- 08 ▶ 特集「工場紹介」
- 09 ▶ 会社概要／グループ会社
- 10 ▶ 株式の状況／株主メモ

裏表紙 ▶ 東京製網ホームページ・  
投資家情報サイトのご案内

 東京製網株式会社

証券コード：5981

# 世界の安心・安全を支える トータル・ケーブル・テクノロジー

## 経営理念

### 「共存共栄」

企業活動を通じて、株主の皆様、お客様の期待に応え、社会の発展に貢献する一。

1887年の創業以来、当社の変わらぬ経営理念は、単なる規模の拡大や利潤の追求に終始しない「共存共栄」です。

## 経営の基本方針

当社グループは、グローバル市場における競争力強化施策の実行と成長戦略の展開により、収益力と財務体質の強化を図り、お客様の視点に立ったサービスの提供をベースに、21世紀においても社会に一層貢献できる企業価値の高い会社を目指します。

## 中長期的ビジョン

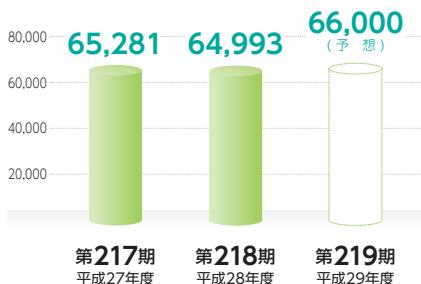
### 「トータル・ケーブル・テクノロジー」の追求

当社グループでは中長期ビジョンとして『トータル・ケーブル・テクノロジー』の追求を掲げ、日々前進を続けております。

「トータル・ケーブル・テクノロジー」とは、**1** 超高強度スチール、高機能繊維、炭素繊維など多くの先端素材によるケーブル製造のラインナップと、**2** 使用されるフィールドに即した様々なケーブル加工技術に加え、**3** 健全性診断や、エンジニアリングといったソリューションを融合して、**4** グローバル市場に、グローバルに展開した拠点から、画期的な商品・サービスを提供できる東京製綱固有の強みを一言で表現したものです。当社グループはこのような独自の強みを最大限に活かして、新たなグローバル時代においても世界をリードする企業として成長し続けていきます。

## 連結業績ハイライト

### 売上高 (単位:百万円)



### 営業利益 (単位:百万円)



### ROE (単位:%)



# 将来を見据え 針路を変えることなく 成長戦略を貫徹する



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第218期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の営業概況をご報告し、今後の成長に向けた取り組みについてご説明させていただきます。引き続き当社事業へのご理解とともに一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年6月

代表取締役社長 **中村 裕明**

## Q 当期の営業状況について お聞かせください

当期は、中期経営計画「TCT-Focus 2020」の2年目として「事業基盤の更なる強化」と「成長戦略の着手・実行」に軸足を置いた経営に取り組んでまいりました。

これら施策の多くは、将来に向けた先行投資という性質が強

く、施策効果の顕在化にはなお時間を要することに加え、海外向け開発製品のプロジェクトに遅延が生じたことや国内鋼索市場の冷え込みといった収入面への影響、更には所有商業施設の事業価値評価を健全化するための減損損失の計上等といった利益面への影響により、連結業績は、売上高649億93百万円（前期比0.4%減）、営業利益34億92百万円（前期比18.8%減）、経常利益29億89百万円（前期比1.1%減）、親会社株主に帰属す

### 経常利益 (単位:百万円)



### 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



### 総資産と1株当たり純資産



※平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、216期（平成26年度）の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

る当期純利益18億82百万円（前期比29.6%減）となりました。

セグメント別の状況では、鋼索鋼線事業は、国内ワイヤロープ販売の冷え込みを輸出や繊維ロープの拡販等でカバーしたものの、売上高は前年同期とほぼ横ばいになりました。

スチールコード事業は、国内・中国ともにタイヤコードの販売数量が減少したものの、ワイヤソーの大口売上があったことで増収・増益となりました。

開発製品事業は、海外向け防災製品とCFCC（炭素繊維複合材ケーブル）の販売が、当該製品を使用するプロジェクトの遅延等が生じたこと、将来的な成長分野として研究開発や体制整備費用が先行したことで、減収かつセグメント損失を計上するにいたりしました。

### Q 中期経営計画「TCT-Focus 2020」の進捗状況についてお聞かせください

以上のとおり、当期は売上・利益ともに前年度を上回ることができず厳しい結果となりましたが、中期経営計画「TCT-Focus 2020」のキーワードの一つである「海外展開」に関しては、昨年11月に米国ミシガン州のCFCC工場が操業を開始し、時を同じくして、国賓として来日中のカザフスタンのナザルバエフ大統領を本社にお迎えし、同国アルマティ市に設立した防災製品工場の開業式典を行うなど、本格事業化に向けた準備が進みました。今後は、これらを収益に結びつけていく活動を加速させてまいります。

今期からは、「TCT-Focus 2020」の後半3カ年がスタートします。計画の仕上げというべき期間に臨むにあたり、この2年間の経営環境の変化や施策の進捗状況を踏まえ、数値目標を見直しましたが、当社グループの目指すべき方向性自体は変わりありません。

年度ごとの目標値など計画の骨子は、後掲のトピックスに記載のとおりでございますが、2020年度以降の持続的成長のため、「事業基盤の更なる強化」と「成長戦略の着手・実行」を着

実に推し進めてまいります。

### Q 通期の見通しと株主の皆様へのメッセージをお願いします

当社グループを取り巻く事業環境は、海外では原油価格の低迷や新興国の景気減速が懸念材料であり、国内では引き続き公共投資が減少するなど、依然として不透明な状況で推移するものと思われま。厳しい環境ではありますが、「TCT-Focus 2020」に掲げた課題を中心に、目下、グループ一丸となって取り組んでいるところでございます。

今期の業績は、連結売上高660億円、連結営業利益38億円を見込んでおり、配当につきましては、引き続き株式1株につき40円の配当を実施する予定です。業績の向上に努め、さらなる還元拡充を図ってまいります。

当社は本年4月に設立130周年を迎えました。これもひとえに株主の皆様やお客様からのご支援があればこそと改めて感謝申し上げます。今後とも皆様のご期待に添うべく、社業の発展に尽くしてまいりますので、一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



## Topics 1 中期経営計画「TCT-Focus 2020」後半3カ年に向けて

平成27年度から5カ年の中期経営計画「TCT-Focus 2020」がスタートし、前半2年が経過いたしました。計画の基本コンセプトと現在の進捗状況および今期以降の取組みは次のとおりです。

### 「TCT-Focus 2020」の基本コンセプト

東京オリンピック特需が終息する2020年以降の持続的成長を見据え、その礎を築くため、「国内事業の基盤強化」、「新素材・新技術への挑戦」、「海外展開」をキーワードに全事業の活性化に取り組んでまいります。



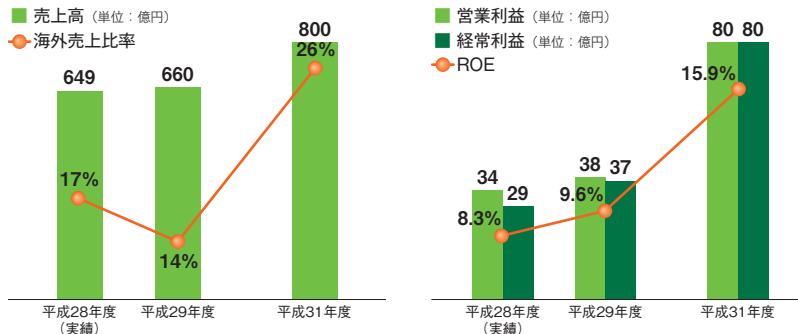
### 進捗状況をふまえた今期以降の取組みと経営数値目標

スタートから2年を経過した現在、CFCC事業と海外エンジニアリング事業において、プロジェクトの進捗遅延などが生じておりますが、当社の目指すべき将来像と方向性に変わるところはなく、当初掲げた計画の骨子および各施策、並びに最終年度の目標値に大幅な変更はございません。引き続き持続的成長に向けた取組みを強化してまいります。特に重要となる海外展開については、インドネシア・北米の両市場におけるCFCC事業の本格化に継続して注力し、中央アジア・中東諸国における防災製品の拡販にもスピード感をもって取り組みます。

具体的な諸施策については、当社Webサイトの投資家情報 (<http://www.tokyorope.co.jp/ir/>) に掲載しておりますので、是非ご覧ください。



#### ■ 経営数値目標



## Topics 2 世界最大のコンテナ船に係留索を納入しました

東京製綱繊維ロープ(株)が製造・販売する合成繊維ロープ「エースライン」が、(株)商船三井の運航するコンテナ船MOL Triumphに係留索として採用され、本年3月に納入いたしました。

MOL Triumphは、本船の長さ400m、幅58.8m、積載コンテナ数20,000個超の世界最大のコンテナ船です。コンテナ船をはじめとした大型船に係留索には、その使用環境から、高強度とともに軽量性や耐水性、耐候性も求められます。「エースライン」はそのいずれにおいても高水準なロープとして、これまでも多くの大型LNG船や大型ばら積み船に採用され、世界的な資源輸送や物流を陰ながらしっかりと支えております。



(写真提供：(株)商船三井)

## Topics 3 国内最大90人乗リエレベータに「スーパーコートロープ」が採用されました

乗用タイプとして国内最大の定員・積載量となる90人乗り大型シャトルエレベータ4台に、当社製エレベータロープが採用されました。東芝エレベータ(株)製の同エレベータは、「住友不動産六本木グランドタワー」に設置され、地上43階、地下2階の大規模高層ビル内の大量輸送を実現しています。同エレベータ4台を活用することにより、10分間で約1,000人を上層階に運ぶことができます。

この度採用された「スーパーコートロープ」は、鋼心が樹脂で完全にコーティングされたワイヤロープで、ロープ内部の耐摩耗性が高く、長寿命のロープとして国内外の超高層ビルのエレベータに幅広く採用されています。ビルの高層化に伴い、エレベータの高速化、大容量化が進むなか、当社は今後もユーザーであるエレベータメーカーのニーズに応える高品質な製品を提供してまいります。



(写真提供：東芝エレベータ(株))

# 東京製綱のアウトライン

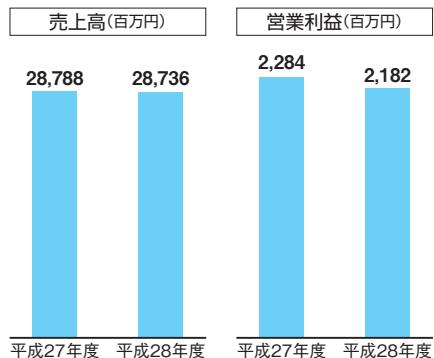
## Outline

### 鋼索鋼線関連事業

エレベータ用・クレーン用・索道用等のワイヤロープ製品、光海底ケーブル補強用・電線補強用等のワイヤ製品、水産用・船舶用繊維ロープ及び網製品等の製造販売を主たる事業としております。

売上高 **28,736** 百万円  
(前年同期比0.2%減)

営業利益 **2,182** 百万円  
(前年同期比4.5%減)

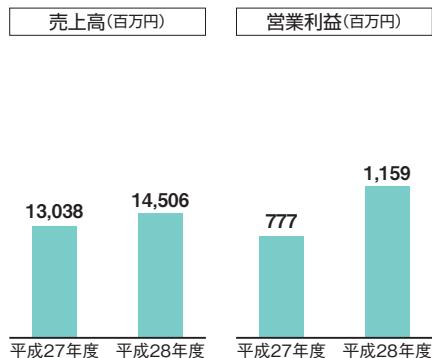


### スチールコード関連事業

タイヤ用スチールコード(タイヤコード)、高圧ホース用ワイヤ、太陽電池用シリコンインゴットスライス用極細鋼線(ソーワイヤ)等の製造・販売を主たる事業としております。

売上高 **14,506** 百万円  
(前年同期比11.3%増)

営業利益 **1,159** 百万円  
(前年同期比49.1%増)

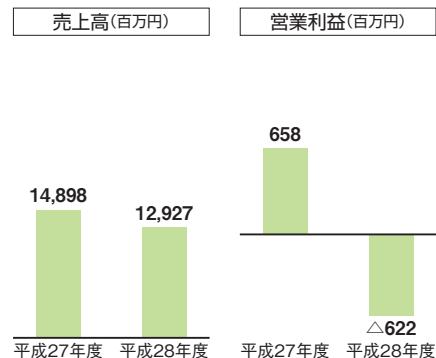


### 開発製品関連事業

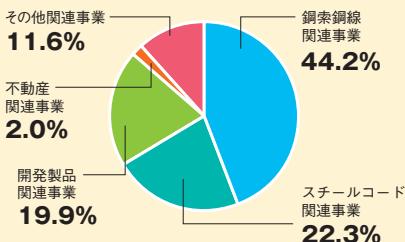
落石・雪崩防止施設やアクリル板遮音壁等の道路安全施設、長大橋用ケーブルの製造・施工・販売、橋梁の設計・施工のほか、金属繊維や炭素繊維複合材ケーブル(CFCC<sup>®</sup>)製品の製造・販売を主たる事業としております。

売上高 **12,927** 百万円  
(前年同期比13.2%減)

営業利益 **△622** 百万円  
(前年同期実績658百万円)



### 事業別売上高構成比 (平成28年度実績ベース)



### 不動産関連事業

遊休不動産の賃貸を主たる事業としております。

売上高 **1,315** 百万円  
(前年同期比3.4%増)

営業利益 **323** 百万円  
(前年同期比157.7%増)

### その他関連事業

石油・LPG等の石油製品の販売、粉末冶金製品、自動計量機・包装機等の製造・販売等を主たる事業としております。

売上高 **7,508** 百万円  
(前年同期比3.1%増)

営業利益 **450** 百万円  
(前年同期比1.8%減)

### 連結貸借対照表

単位：百万円

区分	当期 平成29年3月31日	前期 平成28年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	33,911	36,627
固定資産	47,779	51,861
有形固定資産	33,553	38,313
無形固定資産	433	317
投資その他の資産	13,791	13,230
繰延資産	11	19
資産合計	81,702	88,508
<b>負債の部</b>		
流動負債	28,837	36,168
固定負債	27,249	28,395
負債合計	56,086	64,563
<b>純資産の部</b>		
株主資本	14,029	12,207
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	796	796
利益剰余金	12,543	10,422
自己株式	△ 310	△ 11
その他の包括利益累計額	9,485	9,658
その他有価証券評価差額金	961	641
土地再評価差額金	9,821	10,711
為替換算調整勘定	79	△ 44
退職給付に係る調整累計額	△ 1,377	△ 1,649
非支配株主持分	2,100	2,079
純資産合計	25,615	23,945
負債純資産合計	81,702	88,508

### 連結損益計算書

単位：百万円

区分	当期 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	前期 平成27年4月1日～ 平成28年3月31日
売上高	64,993	65,281
売上原価	50,691	51,286
売上総利益	14,301	13,995
販売費及び一般管理費	10,808	9,691
営業利益	3,492	4,303
営業外収益	502	563
営業外費用	1,005	1,844
経常利益	2,989	3,021
特別利益	2,703	39
特別損失	3,311	251
税金等調整前当期純利益	2,381	2,809
法人税等	478	114
当期純利益	1,903	2,694
非支配株主に帰属する当期純利益	20	21
親会社株主に帰属する当期純利益	1,882	2,673

### 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

区分	当期 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	前期 平成27年4月1日～ 平成28年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,491	4,240
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 100	△ 2,166
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,319	△ 2,087
現金及び現金同等物に係る換算差額	504	△ 65
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,424	△ 79
現金及び現金同等物の期首残高	4,569	4,649
現金及び現金同等物の期末残高	3,144	4,569



詳細な財務情報については当社ウェブサイト「投資家情報」をご覧ください。

東京製綱 投資家情報

検索

<http://www.tokyorope.co.jp/ir/>

### 工場紹介

#### 北上工場（東綱スチールコード株式会社）【岩手県北上市】

北上工場は、岩手県南西部の北上市北部に位置する北上北工業団地内に、面積約53,000坪の敷地を有する当社グループで土浦工場に次ぐ規模の工場です。近接する北上市立公園展勝地は、桜の名所として全国的に有名です。

主要な生産品目は、タイヤコード（自動車用タイヤの補強材）、ホースワイヤ（高圧ホースの補強材）、ソーワイヤ（シリコンインゴッド切断用）などで、なかでもタイヤコードは、1960年代からのモータリゼーションの急速な進展とタイヤのラジアル化を背景に、1970年から生産を開始しており、世界的に見ても草分け的存在です。以来、国内外のタイヤメーカーに製品を供給してきました。

昨今、低燃費を追求したエコカー開発の競争が進むなか、タイヤコードにおいても、より細くより強靱な製品が求められております。北上工場は、それらのニーズに応える高品質な製品を開発し、環境負荷の少ない理想的な車社会の実現に貢献してまいります。



### 事業部長メッセージ

常務取締役 スチールコード事業部長 浅野 正也

スチールコード事業は、タイヤコード、ホースワイヤ、ソーワイヤ等の製造・販売を主たる事業としており、北上工場はこれら全品目を生産しています。

設立以来、鋼の素線をより細くより強く引き伸ばして撚り合わせるという「金属加工の極限」に挑戦し続け、技術を向上させてきました。最近では直径70ミクロンとまさに髪の毛よりも細いワイヤが実用化されています。

当事業の事業環境は、製品のコモデティ化が進むなど厳

しい面もありますが、当社の技術力を生かした差別化商品の開発などを通じて、市場でのプレゼンスを高めてまいります。

東日本大震災では、幸い甚大な被害は免れたものの、北上工場の生産設備などは相応の被害を受けました。震災から6年が経過しましたが、これからも東北を拠点とする一企業として、事業活動を通じて東北の復興に貢献してまいりたいと考えております。

# 会社概要 / グループ会社

## Corporate Data

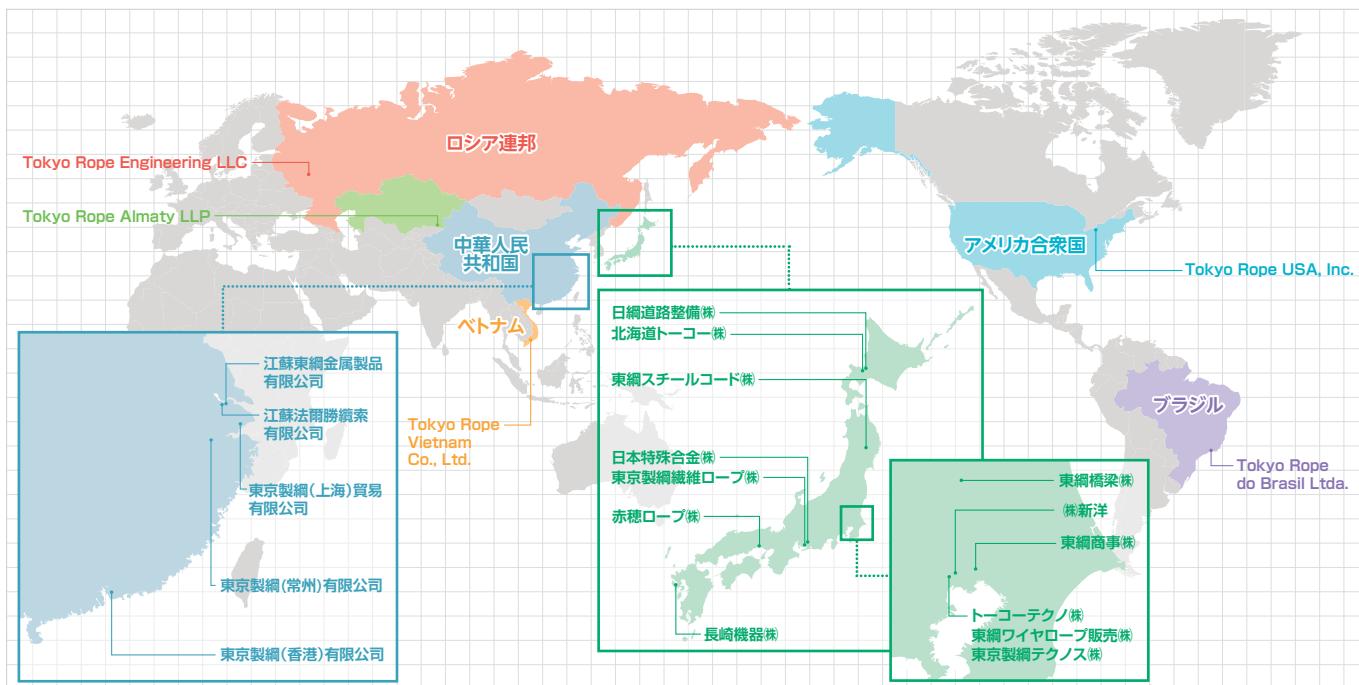
### 会社概要 (平成29年3月31日現在)

会社名 東京製綱株式会社  
 本社所在地 〒103-8306  
 東京都中央区日本橋3-6-2 (日本橋フロント)  
 設立 明治20年(1887年) 4月1日  
 資本の額 1,000,000,000円  
 従業員数 495名 (連結従業員数1,665名)

### 役員 (平成29年6月27日現在)

代表取締役会長	田中重人	
代表取締役社長	中村裕明	
専務取締役	佐藤和規	海外エンジニアリング事業部長兼総務部長・人事部・経営企画部・ 経理部・資金部・環境安全防災室・内部監査室管掌
常務取締役	首藤洋一	CFCC事業部長
常務取締役	浅野正也	スチールコード事業部長・技術開発本部管掌
取締役	中原良	人事部長兼経理部長
取締役	堀内久資	経営企画部長兼資金部長兼IT企画部長
取締役(社外)	増淵稔	独立役員・独立委員会委員
取締役(社外)	駒井正義	独立役員
監査役(常勤)	村田秀樹	
監査役(社外)	小田木毅	独立役員・独立委員会委員
監査役(社外)	山上純一	独立役員
監査役	林俊雄	

### グループ会社 (平成29年6月27日現在)



# 株式の状況 / 株主メモ

## Stock Information

### 単元株式数の変更・株式併合のご案内

当社は、2016年10月1日付で、単元株式数の変更（1,000株から100株に変更）、株式併合（10株を1株に併合）を実施いたしました。

### 株式概要 (平成29年3月31日現在)

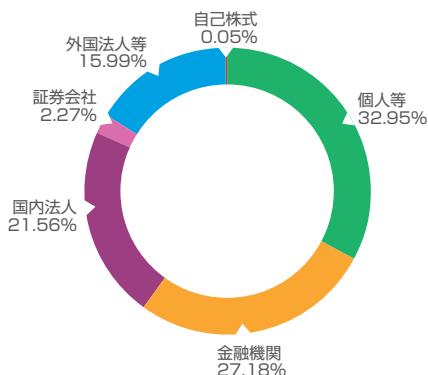
発行済株式総数	普通株式	16,268,242株
発行可能株式総数	普通株式	40,000,000株
株主数	普通株式	11,457名 (前期比1,296名減)

### 大株主 (平成29年3月31日現在)

株主名	持株数	出資比率
	千株	%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,640	10.09
新日鐵住金株式会社	1,150	7.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	527	3.24
株式会社ハイレックスコーポレーション	400	2.46
RBC ISB S/A DUB NON RESIDENT/TREATY RATE UCITS-CLIENTS ACCOUNT	400	2.46
東京ロープ共栄会	360	2.22
KOREA SECURITIES DEPOSITORY-SHINHAN INVESTMENT	270	1.66
横浜ゴム株式会社	267	1.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	260	1.60
KSD-NH	259	1.59

(注) 出資比率は、自己株式(7,952株)を除いて計算しております。

### 株式の分布状況 (平成29年3月31日現在)

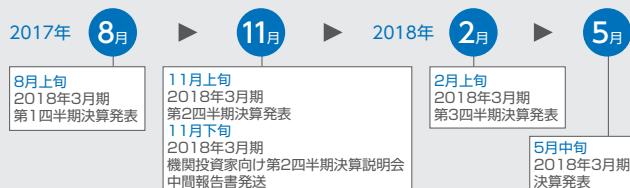


### 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日	
定時株主総会	毎年6月	
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (証券代行部) 〒168-0063 電話0120-782-031(フリーダイヤル)	
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当	3月31日
	中間配当を実施するときは	9月30日
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL <a href="http://www.tokyorope.co.jp/">http://www.tokyorope.co.jp/</a>	

住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申出先について  
証券会社に口座をお持ちの株主様は、お取引先の証券会社にお申出ください。  
証券会社に口座をお持ちでなく、特別口座に株式が保管されている株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### IRカレンダー





◀ ホームページ



▼ 投資家情報



東京製綱ホームページ・投資家情報サイトのご案内

<http://www.tokyorope.co.jp/>

証券取引所への開示情報をはじめ、製品発表等のプレスリリース等、投資家の皆さまにお知らせしたい情報を掲載いたしておりますので、是非一度お立ち寄りください。

 東京製綱株式會社

〒103-8306 東京都中央区日本橋3-6-2(日本橋フロント)  
TEL:03-6366-7777(代) FAX:03-3278-6800

